

令和7年産 なし栽培こよみ（家庭果樹用）

*産直店舗へ出荷される方は、部会・産直部会用のこよみを使用してください。

産直部会用と家庭果樹用のこよみの農業を併用すると、使用基準の違反・出荷停止の恐れがあるので注意してください。

JA尾張中央 営農指導課

時期	生育/管理	使用日	対象病害虫	RAC コード	薬剤名 濃度 (収穫前日数/回数)	水100ℓ 当たり薬量	肥料名	1㎡あたり 施用量
9月	収穫後	/					グリーンアタック 14・8・10	40g
12月	休眠期 (上旬)	/	カイガラムシ ハダニ類 その越冬卵	未	★マシン油乳剤95 16倍 冬期	62ℓ	FTE有機配合866 又は 園芸有機A801号888	180g
3月	発芽前	/						
4月	開花直前 (上旬)	/	黒星病	M03	(展着剤加用) シマンダイセン水和剤 500倍 (30日/5回)	200g	◎記載の肥料が無い場合には窒素成分が 同じくらいの肥料を施用してください。 休眠期の12月に有機質肥料又は発芽前の 3月に化成肥料を、果実肥大期の5月・収 穫後の9月に化成肥料を施用してくださ い。	
			アブラムシ類 ナシヒメシンクイ	1B	マラソン乳剤 2,000倍 (14日/5回)	50ml		
	開花後 (下旬)	/	黒星病	3	(展着剤加用) ★トリフミン水和剤 2,000倍 (前日/3回)	50g	参考 <有機質> ネオフルミックス(8・7・6) <化成> グリーン化成444(14・14・14) 園芸化成(園芸特1号)(14・8・13)	
			アブラムシ類 シンクイムシ カメムシ	3A	★アディオン乳剤 2,000倍 (前日/2回)	50ml		
5月	(中旬)	/	黒星病	3	(展着剤加用) ★オンリーワンフロアブル 2,000倍 (前日/3回)	50ml	グリーンアタック 14・8・10	20g
			アブラムシ類 カイガラムシ	9B	(展着剤加用) ★コルト顆粒水和剤 4,000倍 (前日/3回)	25g		
6月	(上旬)	/	黒輪紋病	M04	(展着剤加用) オーソサイド水和剤80 1,000倍 (3日/9回)	100g		
			アブラムシ類 シンクイムシ カメムシ	4A	(展着剤加用) ダントツ水溶剤 2,000倍 (前日/3回)	50g		
	(下旬)	/	黒輪紋病	1	(展着剤加用) ★ベンレート水和剤 2,000倍 (前日/4回)	50g		
			アブラムシ類 シンクイムシ カメムシ	4A	(展着剤加用) ★スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (前日/3回)	50g		
7月	(中旬)	/	輪紋病	M07	(展着剤加用) ベルコート水和剤 1,000倍 (14日/5回)	100g		
			アブラムシ類 シンクイムシ カメムシ	4A	(展着剤加用) ダントツ水溶剤 2,000倍 (前日/3回)	50g		

(備考)

*5割ぐらいのリスクを考えた場合の、防除指針です。

*RACコードの活用により、薬剤抵抗性をつけないよう、違う記号の農業でローテーション防除をしましょう。

*★は、防除をした方がよい時期です。

*薬剤を混合する場合、原則 展着剤→乳剤→フロアブル→水和剤の順に混ぜる。

*防除薬剤には、展着剤（アグラー：水100ℓ当り10cc）を最初に混ぜてください。

①病気の発生した果実や落葉を放置しておく、病原菌の越冬場所となるので穴を掘って埋めるなど適切に処分する。

②5月にアブラムシ類の発生が多い場合は、ベストガード水溶剤1,000倍（14日/3回）（RACコード4A）を散布する。

③ハダニ類の発生が多い場合は、5月にコロマイト水和剤2,000倍（前日/1回）（RACコード6）を

6月にカネマイトフロアブル1,000倍（前日/1回）（RACコード20B）を散布する。

④8月にシンクイムシ類が発生したら、フェニックス顆粒水和剤4,000倍（前日/2回）（RACコード28）を散布する。

⑤6月中旬には、袋かけをおこなう。

*施肥基準の作成にあたって、生産部会、産直部会、愛知県施肥基準を参考にしました。

目標収量（3,000kg）、窒素成分（23kg）、成本本数（30本）で施肥設計しました。

基肥として、12月なら緩効性・3月なら速効性肥料を施用してください。

なお、園地観察・収量・土壌診断結果を参考に適正な施肥を行ってください。

令和6年10月作成